

東京大学 グレーター東大塾 2011年冬期受講生募集要項

1. 塾生対象者

海洋関連事業・行政関係者、本テーマに関心の強い個人及び法人派遣者、新規事業企画担当者等

2. 定員：30名

3. 参加費：30万円

4. 選考方法

書類審査によって入塾を決定します。

応募者多数の場合は専門分野のバランスを考慮し、事務局で選考いたします。

入塾をお断りすることもありますので、ご了承ください。

5. 出願方法と出願期間

(1) 出願方法

参加申込書に必要事項をご記入の上、お申込みください。

申込フォーム URL: <http://tsii.todai-alumni.jp/gtc/>

(2) 締切り日

2011年9月9日(金)

6. 審査・選考結果発表

・書類審査の結果は、2011年9月12日(月)までにメールにて通知いたします。

・選考結果通知後に参加を辞退する場合は、速やかに申し出てください。

7. 参加費の納付

受講が確定した塾生に、参加費納付関連の書類、請求書を郵送いたします。納付期限は2011年9月30日(金)です。

8. 個人情報の取り扱い及び注意事項

・提出された書類は、いかなる事情があっても返却には応じられません。

・出願により知り得た氏名、住所、その他個人情報については、参加者選考、選考結果発表、入塾手続き業務を行うために利用します。また、同個人情報は、入塾者の教務関係や受講料徴収に関わる業務を行うために利用します。上記各種業務は、一部を本学より受託業者に委託して行うことがあり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供する場合があります。

・本募集要項の記載内容は変更される場合があります。

お問合せ、お申込先

東京大学卒業生室内・グレーター東大塾事務局 担当：覚張(かくばり) 功

〒113-8654

東京都文京区本郷 7-3-1

TEL: 03-5841-1210

FAX: 03-5841-1054

E-mail: juku@todai-alumni.jp

東京大学 海洋アライアンス
UT Ocean Alliance

情報の発信 Information Transmission
海のシンクタンク Ocean Think-tank
人材育成 Human Resource Development

国内外連携組織

教育学研究科 総合文化研究科 理学系研究科 工学系研究科 農学生命科学研究科 新領域創成科学研究科 公共政策大学院 地震研究所 東洋文化研究所 生産技術研究所 史料編纂所 大気海洋研究所 アジア生物資源環境研究センター

学際的・政策的海洋研究プログラム
海洋学際教育プログラム

総合海洋基盤(日本財団)プログラム
その他外部資金によるプロジェクト等

研究科 研究所 センター



平成23年度冬期開講受講生募集

グレーター東大塾

02

飯笹塾 / (塾長：東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 飯笹幸吉)

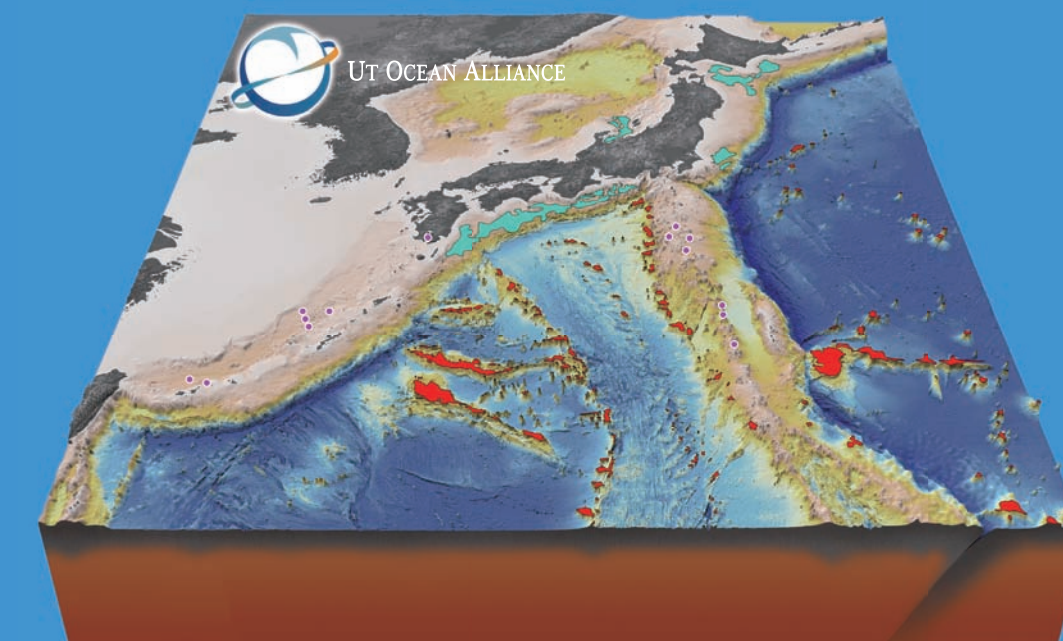
テーマ 『**深海資源戦略**』

会場 / 東京大学経済学研究科学術交流棟・小島ホール

海

グレーター東大塾 (Greater Todai Juku)

東京大学における生涯学習プログラムとして発足しました。グレーターとは、在学教育を拡大して卒業生や社会人を対象とすることから名付けています。先端専門性の高いテーマをピックアップして、課題に精通する第一線教授陣を長とする、「塾」形式で開講します。





濱田 純一 (東京大学 総長)
Hamada Junichi

2009年4月、総長に就任した私は、6年間の任期中における大学運営の基本姿勢として、「森を動かす。世界を担う知の拠点へ」と題する所信を述べ、その具体策を〈行動シナリオ FOREST2015〉として公表しました。東京大学は、国民から付託された知の資源を最大限に活用し、社会各層と幅広く手を携えながら未来の社会に対する公共的な責任を担っていかねばなりません。その一つの試みが、卒業生等を対象とした国際的なリーダーの育成に相応しい高度な教養教育プログラムの実施です。このような場を設けて、大学と社会の間の双方向コミュニケーションを強化するとともに、多様な人々が課題を発見・共有し、その解決に向けた創造的活動を展開できるようにしたい(知の共創)と考えています。



江川 雅子 (東京大学 理事)
Egawa Masako

グレーター東大塾は、卒業生が生涯にわたって大学と絆を持ち続け、世界的視野に立って、公正な社会の実現や科学・文化の創造に貢献し続ける為の仕組みとして生まれました。東大の生涯教育プログラムの中でも、グレーター東大塾は、先端専門性に焦点を置き、現実社会の身近なテーマを取り上げて、塾長となる教授の指導のもとに展開するユニークなものです。一般教養の講義というレベルを超えて、大学と社会が連携して第一線の課題に取り組み、問題解決のネットワークを構築する、それが本プログラムの目的です。

グレーター東大塾の概要

場 所 東大キャンパス内
時 間 平日夜、19時～21時半
期 間 半期、12～15コマ
規 模 クラス25名程度
参加費 30万円前後(プログラムにより異なる)

特 色
● 先端・専門性の高い現代社会的テーマ
● 塾長の個性を尊重した多種多様なプログラム
● 外部講師も含めた実践的内容
● 受講生参加による共同研究・政策提言なども視野

緊密強固な絆

グレーター東大塾 02 Greater Todai Juku

深海資源戦略

塾長：東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 飯笹幸吉

世界的な金属・エネルギー需要の高まりに伴い、資源の安定確保は喫緊の課題となっています。幸いにもわが国は広大な排他的経済水域をもち、そこには外国資本も触手を伸ばそうとするほどの潜在的に有望な鉱床が存在します。すなわちポテンシャルがあるのです。しかし海洋の資源開発とは、ポテンシャルが存在するというだけで推し進められるものではなく、技術力、経済性、法規制、環境保全、そして社会的合意などが調和・融合されてこそ、初めて着手できます。わが国が深海海洋資源開発を行うためには、どのような課題があるのか、その解決に必要な戦略とは何であるのか等、多様な角度から考察したいと思います。

2011年度 グレーター東大塾 深海資源戦略 講座予定

開催日	講座名	内容	講師
10月4日(火)	第1回 講座1 海底資源開発概論 [海洋資源開発の総合戦略]	海底にある資源は、1) 鉱物資源、2) 食料資源、3) エネルギー資源及び 4) 情報資源である。深い故に開発されていない資源を概観し、日本の排他的経済水域に存在する資源の開発に向けて道筋を考える。	海洋アライアンス機構長 生産技術研究所教授 浦 環
10月11日(火)	第2回 講座2 海底熱水鉱床 [海底熱水鉱床とその資源ポテンシャル]	海底熱水鉱床は、いつ、どこで、どのように形成されたのか? 目下形成中の鉱床はどこに存在するのか? 本講義では、鉱床形成場の地球科学的特徴について概観し、日本周辺における海底熱水鉱床の有用性について考察する。	新領域創成科学研究科 教授 飯笹 幸吉
10月18日(火)	第3回 講座2 海底熱水鉱床 [海底熱水活動域の生物群集]	熱水鉱床を形成する熱水噴出孔の周辺には、他の深海底には見られない多くの生物が分布しており、鉱床開発にあたり、その保全が求められている。本講義では、生物群集の特徴を概観し、保全研究の現状を紹介する。	大気海洋研究所教授 小島 茂明
11月1日(火)	第4回 講座2 海底熱水鉱床 [海底熱水鉱床の採鉱技術]	海底熱水鉱床の採鉱技術について、その現状と課題に焦点をあて、我が国の取組状況、パプア・ニューギニア海域における Nautilus 社の動向、商業開発の可能性について講義する。	工学系研究科教授 山富 二郎
11月8日(火)	第5回 講座3 メタンハイドレート [地球表層の巨大炭素シンクとしてのメタンハイドレート]	メタンハイドレートとはメタンガスと水分子からなる氷状の固体物質であり、深海底や深海堆積物、永久凍土の地下に広く分布する。4回シリーズでエネルギー資源としての可能性について考えるが、第1回は地球表層における炭化水素の一形態としてのメタンハイドレートの起源、炭素循環の中での位置づけ、資源化へ向けての研究開発について紹介しシリーズへの序論としたい。	理学系研究科教授 松本 良
11月15日(火)	第6回 講座3 メタンハイドレート [日本周辺海域のメタンハイドレート鉱床と我が国のエネルギー問題]	調査航海のビデオ映像などを使い日本周辺海域のメタンハイドレート鉱床の分布と起源、理解の深化と探査の進捗について紹介する。そのあと、国際的なエネルギー需給と3、11後の新たな状況により、天然ガス(LNG)への依存が急速に高まることが予想される中で、国産エネルギーとしてのメタンハイドレート開発への期待について考えたい。	理学系研究科 教授 松本 良 LECリーガルマインド大学 教授 隈元 泰弘
11月22日(火)	第7回 講座3 メタンハイドレート [メタンハイドレート開発研究とその将来展望]	海底下の地層中に存在するメタンハイドレートからは、どのくらいのエネルギーが取り出せるのか? その生産原理と開発研究の現状を解説したのち、日本周辺海域での海洋産出試験計画を含めた国の研究戦略を紹介する。	工学系研究科准教授 増田 昌敬

幅広い産業分野の協力
鉱業 商社
船舶 海洋開発

技術革新 統合化技術
産官学連携

資源政策
総合海洋政策
関連法整備



塾長 飯笹幸吉教授
(プロフィール)
東京教育大学理学部地学科卒。東京大学大学院工学系研究科資源開発工学専攻博士課程修了(工学博士)。通商産業省工業技術院地質調査所・産業技術総合研究所を経て、現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻において、海底熱水鉱床の形成機構に基づいた探査手法の構築や鉱物資源量・環境影響の評価法等に関する研究を行っている。



副塾長 福島朋彦 特任准教授
(プロフィール)
東京水産大学水産学部資源増殖学科卒、同大学院修士課程修了。理学博士(京都大学)。専門は深海環境保全学。民間企業、民間シンクタンクを経て、東京大学海洋アライアンスの特任准教授に就く。深海環境保全をテーマとする研究・教育のほか、海洋教育の普及推進、沖ノ鳥島の保全の在り方など、海洋にかかわる問題の解決に向けて、領域横断的な取り組みを行っている。

講義時間：90分(講義) + 60分(質疑応答) 19:00～21:30

開催日	講座名	内容	講師
11月29日(火)	第8回 講座3 メタンハイドレート [メタンハイドレート開発の有効性評価]	エネルギー資源の供給障害リスクヘッジとしてのメタンハイドレート開発の有効性と、メタンハイドレート開発に伴う環境影響評価について概説する。	新領域創成科学研究科教授 佐藤 徹
12月20日(火)	第9回 講座4 マンガンラスト・マンガ団塊 [北西太平洋におけるマンガララスト資源の実態把握に向けて]	将来のレアメタル資源として潜在性が指摘されているマンガララストは北西太平洋に分布するの? 今こそ、その分布パターン、生成メカニズム、起源に関する地球科学的研究を展開すべきである。	高知大学 理学部 教授 臼井 朗
2012年 1月10日(火)	第10回 講座4 マンガンラスト・マンガ団塊 [マンガ団塊開発と環境影響調査]	資源開発と環境保全は、持続可能な開発という理念のもと、車の両輪の関係にある。この先駆けとなったマンガ団塊の開発に伴う環境影響調査の歴史を振り返り、今後の海洋開発と環境保全の在り方を考えたい。	海洋アライアンス 特任准教授 福島 朋彦
1月17日(火)	第11回 講座5 社会科学的考察 [金属需要の国際動向]	中国の需要拡大・資源メジャーの寡占化・環境や地域住民問題・資源ナショナリズム・投機資金の流入により、資源確保は激化の傾向にある。国際需要動向や資源確保問題について紹介したい。	生産技術研究所 客員教授 澤田 賢治
1月24日(火)	第12回 講座5 社会科学的考察 [国内法の現状と整備]	我が国周辺海域におけるメタンハイドレート、海底熱水鉱床等の資源開発の進展等を踏まえ、60年ぶりの抜本改正が予定されている鉱業法について、改正の背景、改正内容について説明する。	資源エネルギー庁 資源・燃料部政策課 燃料政策企画室長 住谷 安史
2月7日(火)	第13回 講座6 総合資源戦略 [国連海洋法条約の「大陸棚」]	沿岸国が海底資源開発を排他的に行える範囲を国連海洋法条約は「大陸棚」と呼ぶ。その範囲は科学データに基づき国連で審査される。武器を用いずに国の領域を広げられるこの制度、世界はどう動き、我が国はどうか?	内閣官房総合海洋政策本部 内閣参事官 谷 伸
2月14日(火)	第14回 講座6 総合資源戦略 [まとめにかえて]	これまでの講義で概観したように、現在、海底資源のいずれも商業的開発が可能な段階にはなく、総合的な国家戦略のもとに産官学が役割分担をして開発を進めていかなければならない状況にある。21世紀社会の中での海底資源の位置づけについて議論を行う。	海洋アライアンス 副機構長 理学系研究科 教授 浦辺 徹郎

※講師ならびに講座内容は変更される場合があります。ご了承ください。